opusdei.org

38. サンヘドリンは 何ですか?

サンヘドリンはユダヤ法の最高法院で、口頭と書面の両面でのトーラーを解釈し適用して正義を確保することを使命としていました。

2016/09/27

サンヘドリンはユダヤ法の最高法院で、口頭と書面の両面でのトーラーを解釈し適用して正義を確保することを使命としていました。同時に、それはローマ帝国権力に対するユダ

ヤ人民の代表という性質を誇示しました。

昔からの伝統に従い71人のメン バーがいて、想像するところでは、 モーゼ自身に加えモーゼを支える7 0人の長老が正義を確保する上で 行った役目を引き継ぎました。それ は聖職者の貴族や名門の家族などの 代表者を含めて発展しましたが、そ の時期は多分紀元前5-6世紀のペ ルシャの時代です。それについて初 めて言及されたのはシリアの王、ア ンティオコス3世(紀元前223-187 年)の時でGerousia (長老委員会) と いう名前です。ヒルカノス2世(紀 元前63-40年) の時からSynedrion (集会)という名前になったことが 確認されています。当時それを主宰 していたのは君主のハスモン朝で、 彼もまた大祭司でした。

ヘロデ大王はその支配の最初にメン バーの多くを処刑するよう命じまし た、その数はフラウィウス・ヨセフスによると45人でした(『ユダヤ古代誌』15,6)。なぜならば長老委員会は敢えてヘロデ大王の権限が及ぶ範囲を明確にしようとしたからです。その委員たちは大王に従順な人にで表した。ヘロデ大王そしてその後のアルケラオの時代にはサンへよりとんど重要性を持たなくなっていました。

ローマ帝国の行政官による支配の時代、そしてポンテイオ・ピラトの時、サンヘドリンは再びユダヤの領土のといて民事及び刑事での司法の問題を果たしていました。その関係は流むローマ帝国の行政官との相対の事に対するローマを国のに対するした。それに対するローマ帝国のにもかからず、その当時のtestas gladiiと呼ばれていた死刑を宣告を権限は、皇帝から広範な法的な権限は、皇帝から広範な法の総督が与えられていたローマ帝国の総督

(praefectus)に留保されており、た ぶんそれはその権限の一つであった でしょう。従って、サンヘドリンは 自分たちに権利があると考えても、 誰に対しても死刑を宣告することは できませんでした。

イエスを尋問するために夜中に開かれたサンヘドリンのメンバーによる会合は、死罪に値する告発状を推敲するための調査に外ならず、翌朝ローマ帝国の総督に対してイエスを告発するために提出するものでした。

参考書: Joachim GNILKA, Jesús de Nazaret. Mensaje e historia (Herder, Barcelona 1993); Antonio RODRÍGUEZ CARMONA, La religión judía. Historia y teología, (B.A.C., Madrid 2001) pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-38/ (2025/12/13)